

JSAT 日本情報考古学会会報

NEWSLETTER OF THE JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION No.40 February 2018

目次

3D 技術と考古学—日本情報考古学会第 39 回大会 in Tokyo— 平川ひろみ	1
日本情報考古学会第 39 回大会プログラム (記録)	4
日本情報考古学会第 38 回大会 in Kagoshima の記録	5
日本情報考古学会第 38 回大会プログラム (記録)	6
2017 年度日本情報考古学会総会報告	7
2016 年度第 2 回理事会議事録	8
2017 年度第 1 回理事会議事録	8
2017 年度日本情報考古学会賞	8
第 40 回大会 in 小豆島の開催について	9
『3D 技術と考古学 基調講演資料』の頒布	12
学会誌『情報考古学』の投稿先・編集局の変更	12

3D 技術と考古学

—日本情報考古学会第 39 回大会 in Tokyo—

平川ひろみ

2017 年 10 月 28 日 (土)・29 日 (日) の両日、日本情報考古学会第 39 回大会が、明治大学駿河台キャンパスのリバティタワーを会場として開かれました。この企画や運営に関わらせていただきましたので、感想などを交えてその報告をいたします。

今回の大会テーマは「3D 技術と考古学」。創立百周年を迎えた学術専門書籍出版社の雄山閣との共催という、いつもとは異なる新鮮な形での開催でした。1 日目には、3D 関連特別セッションとして「3D 技術と考古学」のシンポジウムとディスカッションが行われました。これは、「第 2 回 雄山閣百周年記念シンポジウム」を兼ねて企画されたものです。2 日目は、一般講演 (研究発表) とともに、3D 関連デモンストラレーションも行われました。今大会は、いま考古学界で盛り上がっている 3D がテーマだったこともあり、全国から多くの方々が足を運んでくださいました。おかげさまで、1 日目だけで 100 名をこえ、両日ともに盛況となりました。



パネリストによるシンポジウム・ディスカッション



基調講演。会場の様子



開会式。植木武会長の挨拶



雄山閣 宮田哲男社長の挨拶

1 日目、本学会の植木武会長と雄山閣の宮田哲男社長が挨拶をされ、いよいよシンポジウムが幕を開けました。シンポジウムでは、さきに雄山閣から刊行された『季刊考古学』第 140 号「特集 3D 技術と考古学」(2017 年 8 月刊行)の執筆関係者 10 名 (本学会からは、中園、千葉、野口、川宿田、太郎良、今野、平川、そのほか金田、水野、横山の 3 氏) が次々に登壇して基



基調講演 川宿田氏



基調講演 野口氏



基調講演 今野氏



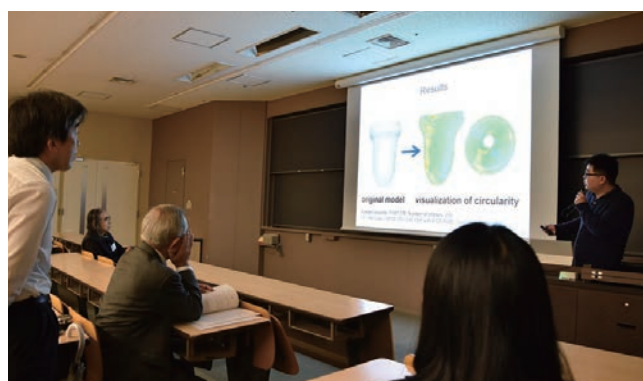
基調講演 横山氏



基調講演 中園氏



基調講演 千葉氏



一般講演

調講演。それぞれの研究成果や考え方を開陳しました。その後、執筆者で大阪大学の佐藤先生も多忙のなか駆けつけて下さり合流。特集号を編集した中園先生の司会で、全員でディスカッションを行いました。会場を



懇親会。明治大学スカイラウンジ暁（師弟食堂）

含む様々な立場から意見が交わされました。

基調講演とディスカッションでは、それぞれ分野や対象を異にするパネリストたちにより、十人十色のユニークな内容が展開されました。どれも聞きごたえの



3D 関連デモンストレーション



ポスターセッション

ある内容で、得難い大変貴重な時間でした。私もパネリストの1人として参画させていただきましたが、異なる切り口からの情報に触れ、新しい知見を得るとともに、自身の思考を鍛える良い機会となりました。

会場では、熱心にメモをとりながら真剣に聴く方がとても目立ったことは印象的でした。この大会は、今のニーズに応じたタイムリーなものだったようです。私は、3D 考古学の最前線でリードされている方々の講演を聴き、「3D 考古学は、既存の考古学の枠組みをドラスティックに変革させるかもしれない。そして、それは今ここで生まれつつある」と思わずにはいられていませんでした。後で同様な感想を何人かの方からうかがいました。本学会では20年前の設立の初期から3D 考古学に関する発表が行われてきた歴史があり、国内の考古学関係の学会では特に際立った特徴をもっています。そのことを想起すると（私は設立時からの会員ではなく、研究史的知識からの記述ですので、くれぐれも誤解なきようお願いします）、まさにいま、それが大きく開花しつつあることに感銘を覚えます。

ディスカッションの後は、明治大学リバティタワー17階にあるスカイラウンジ暁（師弟食堂）で懇親会が開かれました。常連の方、久しぶりの方もおられま

したが、新しい顔ぶれが多く参加されました。皆が揃ったところで、植木会長の挨拶。それに続いて、三辻理事の乾杯の音頭で会が始まりました。さっそく、あちらこちらで歓談しながら議論の続きが始まり、「3D」をキーワードとして、分野・立場・世代の違いをこえた交流と対話が行われる様子がうかがえました。私にとって充実した、とても刺激的な1日になったことは間違いありません。

2日目は、一般講演（研究発表）14件（うち口頭発表10件、ポスターセッション4件）が行われました。中国考古学における三次元考古学の現状、3D技術とその応用研究、埴輪の生産・供給や古代尺度の研究、磁化研究など、幅広い領域の研究発表がありました。若手研究者による発表が目立ち、うち2件は中国からの留学生でした。参加者の中にも若手の研究者や学生の姿が多く見られ、3D考古学への関心の高さを示しているようでした。国際化や若い世代に関心をもってもらうことは学会として大切なことです。年配の研究者と若手研究者の交流の場ともなったと感じました。

ポスター発表のコアタイムでは、それぞれのポスターの前に人だかりができるなど大変盛況でした。時間外にも熱い議論が交わされるほどでしたが、なかには、議論が高じて別の人のポスターを解説し始めてしまい、発表者が質問しているというシュールな一幕も（あえて写真は出しません……）。そのほか、「3D 関連デモンストレーション」でも、多くの方が興味深く説明を聞いたり質問をしたりされていましたが、企業の方から説明を受けるだけでなく、参加者と相互にいろいろと意見交換をする光景が見られました。今回出展していただいた企業の2社は、どちらも多数の写真を解析して3Dモデルを生成する「SfM-MVS」に関するものですが、これは今のトレンドを示していると思います。このように、研究者も学生も、行政や企業の方も……、理系も文系も入り混じって、一緒に議論し対話をする貴重な機会となったと思います。

なお、2日目のお昼には総会に引き続いて、学会賞授与式が開かれました。今年度は論文賞が2件（後ろにある記録のとおり）で、植木会長よりそれぞれ表彰状と記念の盾が贈られました。光栄なことに私も受賞させていただきました。これを励みに頑張っていこう

と思います。

昨今、3D 考古学が研究や調査記録の面だけでなく、学校や地域で教育的活用が本格化する兆しがあると感じていますが、今回の発表の随所でそれを感じました。こうした動きは欧米などではすでにありますが、日本でも「パブリックアーケオロジー」との関係はますます深まっていくと思います。なおシンポジウムのディスカッションでは、学会などの場できちんと議論されることがなく刺激的な「実測図問題」——日本の考古学者のアイデンティティにも関わる——も出ました。これは、「デリケートな問題だが避けて通れない」としてコーディネーターの中園先生が躊躇しながらもあえて問いかけたもの。今回は時間の都合であまり深められなかったのは残念でしたが、議論が出たこと自体が大変意義あることだったと思います。また、3D 考古学の明るい話題だけでなく、3D データの公開に関して注意を要する難しい問題があることも浮き彫りになりました。3D 考古学をめぐる大会が終わった後も、しばらく関係者の SNS で白熱した議論が続き

ました。そのきっかけを作った点でも、この大会は一定の役割を果たしたと思います。本学会はもちろん、さらに各方面で、議論が深められればと願っています。

今大会の開催にあたっては、雄山閣の皆様には大変お世話になりました。植木会長自ら大会実行委員長として会場の手配や共催の実施などに尽力されました。また、明治大学教授の佐々木憲一先生には準備から後片付けまで、様々なご配慮とご協力をいただきました。参加された方々、ご協力いただいた企業の方々など、多くの方のおかげで成功裡に終わったことを、末尾ながら銘記したいと思います。ありがとうございました。また、これからも意義のある大会が開催されるよう願っています。

日本情報考古学会第 39 回大会プログラム（記録）

日本情報考古学会第 39 回大会は、以下のような日程・内容でした。記録としてプログラムを掲載します。

期日：2017 年 10 月 28 日（土）・29 日（日）

会場：明治大学 駿河台キャンパス（東京都千代田区
神田駿河台 1-1）リバティタワー 1001 教室

第 1 日 10 月 28 日（土）

開会式 13:00-13:10

3D 関連特別セッション

基調講演 1（研究発表 1） 13:10-13:30

三次元考古学の新天地——趣旨説明と展望——

中園 聡（鹿児島国際大学）

基調講演 2（研究発表 2） 13:30-13:50

精密三次元計測と銅鏡研究

水野敏典（奈良県立橿原考古学研究所）

基調講演 3（研究発表 3） 13:50-14:10

一般的な遺物の記録と考古学研究への応用

太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）、中園 聡（同大学）

基調講演 4（研究発表 4） 14:10-14:30

考古遺物のための三次元計測機開発

千葉 史（株式会社ラング）

基調講演 5（研究発表 5） 14:30-14:50

PEAKIT による考古遺物の視覚表現

横山 真（株式会社ラング）

基調講演 6（研究発表 6） 14:50-15:10

3 次元計測点群からの接合資料生成と手順の可視化

今野晃市（岩手大学）

基調講演 7（研究発表 7） 15:15-15:35

普及する三次元記録とその応用——海外・隣接分野を含めて——

平川ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター / 鹿児島国際大学）

基調講演 8（研究発表 8） 15:35-15:55

海外における文化遺産の記録・保護と 3D 技術——社会技術基盤の整備を補う手段として——



野口 淳 (NPO 法人南アジア文化遺産センター)
 基調講演 9 (研究発表 9) 15:55-16:15
 三次元計測の可能性を考える—実践からみる可能性と課題
 金田明大 (奈良文化財研究所埋蔵文化財センター)
 基調講演 10 (研究発表 10) 16:15-16:35
 地域資源の活用—博物館活動と三次元記録—
 川宿田好見 (同志社大学文化遺産情報科学研究センター)
 シンポジウム・ディスカッション 16:45-17:45
 「3D 考古学を考える」
 パネリスト 金田明大、川宿田好見、今野晃市、太郎良真
 妃、千葉 史、中園 聡、野口 淳、平川ひろみ、水野敏典、
 横山 真
 コーディネーター 佐藤宏介
 懇親会 18:00- リバティタワー 17 階スカイラウンジ眺(師弟食堂)

第 2 日 10 月 29 日 (日)

一般講演 (座長 山口文彦)
 研究発表 11 9:30-9:50
 土器遺物の産地問題の研究における分析化学—方法論の構築—
 三辻利一、中園 聡 (鹿児島国際大学)、犬木 努 (大阪大谷
 大学)
 研究発表 12 9:50-10:10
 関東地域における埴輪の生産・供給問題に関する研究—窯跡出
 土埴輪の化学特性—
 三辻利一、犬木 努 (大阪大谷大学)
 研究発表 13 10:10-10:30
 A Study of Distortion Analysis with Elliptic Circularity for
 Rotational Shape of Earthenware Based on Measured Point
 Cloud
 韓 菲 (岩手大学)、木下 勉 (東北学院大学)、千葉 史 (株
 式会社ラング)、松山克胤、今野晃市 (岩手大学)
 研究発表 14 10:30-10:50
 中国における 3D 考古学とその現状
 楊 帆 (鹿児島国際大学大学院)
 研究発表 15 10:50-11:10
 造営尺推定プログラムの開発
 西村 淳 (函館大学)、西村匠悟 (京三システム株式会社)
 研究発表 16 11:10-11:30
 7 世紀寺院の回廊柱間に関する統計学的分析と使用尺度推定
 河嶋優輝 (筑波大学大学院)
 総会、学会賞授賞式 11:30-12:00
 ポスターセッション・3D 関連デモンストレーション コアタイム
 13:00-14:00
 一般講演 (座長 平川ひろみ)
 研究発表 17 14:00-14:20
 考古学から見たホモ サピエンスの日本列島への渡来と拡散 第 3 報
 植木 武 (共立女子学園名誉教授)
 研究発表 18 14:20-14:40
 沖縄県サキタリ洞遺跡の被熱遺構の磁化研究
 菅頭明日香 (青山学院大学)、酒井英男 (富山大学大学院)、
 山崎真治 (沖縄県立博物館・美術館)
 研究発表 19 14:40-15:00
 シリア・ドウアラ洞窟中期旧石器遺跡における炉跡焼土の磁化
 —被熱と地磁気復元の研究—
 酒井英男 (富山大学理学部)、木村 賛 (元東京大学理学部)、
 赤澤 威 (元高知工科大学)
 研究発表 20 15:00-15:20
 考古地磁気による噴砂 (古地震) の年代推定

酒井英男、泉 吉紀、名古屋岳秀 (富山大学理学部)、野垣好
 史 (富山市埋蔵文化財センター)、ト部厚志 (新潟大学・災害
 復興科学研究所)

閉会式 15:20-15:30

ポスターセッション

研究発表 21
 地中レーダ探査による有珠オヤコツ遺跡の研究
 泉 吉紀、酒井英男 (富山大学)、伊達元成 (伊達市噴火湾文
 化研究所)、中村和之 (函館工業高等専門学校)
 研究発表 22
 速報・三次元計測を多用した発掘調査—三島村黒島大里遺跡—
 【三次元計測のデモを含む】
 中園 聡、太郎良真妃 (鹿児島国際大学大学院)、平川ひろみ (同
 志社大学文化遺産情報科学調査研究センター/鹿児島国際大学)
 研究発表 23
 地域と文化資源をつなぐ三次元記録とレプリカ【三次元計測の
 デモ及びレプリカの展示を含む】
 川宿田好見 (同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター)
 研究発表 24
 東京都大田区久ヶ原遺跡採集弥生土器の 3D 計測—学史的資料
 を 3D 化することによって見えたこと—
 野口 淳 (NPO 法人南アジア文化遺産センター)、斎藤あや (大
 田区立郷土博物館)
 3D 関係デモ
 株式会社 CUBIC (デモ展示)「遺物 & 遺構実測支援システム
 with PhotoScan」
 株式会社 ラング (デモ展示)「Photo PEAKIT」
 株式会社 雄山閣 (『季刊考古学』第 140 号 (特集 3D 技術と考
 古学) ほか書籍) ほか

日本情報考古学会第 38 回大会 in Kagoshima の記録

2017 年 3 月 25 日 (土)・26 日 (日) の両日、日本
 情報考古学会第 38 回大会が鹿児島国際大学で開催さ
 れました。同大学での大会の開催は 2 回目。桜島の噴
 煙がかすかにたなびくなか、大会は 2 日間にわたり、
 一般講演では、三次元記録、パブリックアーケオロ
 ジー、胎土分析による産地推定、民族考古学など、多
 様な研究内容が発表されました。

特別講演は、竹中正巳先生 (鹿児島女子短期大学教
 授) を特別講師として迎え、「古人骨から南九州・南
 西諸島集団の成り立ちを探る」と題するご講演いただ
 きました。竹中先生は自然人類学がご専門の気鋭の研
 究者です。これまで数多くの遺跡の人骨の解明に尽力
 されてきました。現在も、国内外を問わず各方面に足
 を運ばれ活躍されています。日本列島の中でも注目さ
 れるフィールドである九州や南西諸島の様相につい
 て、先生の最新の研究成果を交えてお話いただき、



特別講演。竹中正巳先生



一般講演



ポスターセッション



考古学実験室機器見学。三辻・中園氏による解説



懇親会。ホテルガストフ

参加者は興味深く聞き入っていました。

そのほか、3Dプリンタで出力したレプリカや実物資料を用いたハンズオン展示もありました。さらに、大学内の考古学実験室（実験室および測定室）に設置されている三次元スキャナや蛍光X線分析装置などの機器見学も解説つきで実施され、いずれも好評でした。

日本情報考古学会第38回大会プログラム（記録）

日本情報考古学会第38回大会は、以下のような日程・内容でした。記録としてプログラムを掲載します。

期日：2017年3月25日（土）・26日（日）

会場：鹿児島国際大学（鹿児島県鹿児島市坂之上8丁目34-1）7号館1階710

第1日 3月25日（土）

開会式 13:00-13:10

一般講演（座長 西村 淳）

研究発表1 13:10-13:30

小豆島における大坂城残石の記録と活用—SfMを用いた文化財の三次元記録とその活用—

川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）

研究発表2 13:30-13:50

考古学から見たホモ サピエンスの日本列島への渡来と拡散第2報

植木 武（共立女子学園名誉教授）

研究発表3 13:50-14:10

弥生土器製作素材の採取地の民族考古学的・考古科学的検討—九州の弥生土器、タイ、フィジーの例を中心に—

中園 聡（鹿児島国際大学）

研究発表4 14:10-14:30

SfMによる土器調整痕の微細三次元形状計測の試み

太郎良真妃、中園 聡（鹿児島国際大学大学院）

一般講演（座長 川宿田好見）

研究発表5 14:40-15:00

『難波丸』に書かれた商業・手工業生産からうかがえる近世大坂の町の特性

杉本厚典（大阪歴史博物館）

研究発表 6 15:00-15:20

「母集団」の概念—土器遺物の産地問題の研究における分析化学—
三辻利一、中園 聡（鹿児島国際大学）

研究発表 7 15:20-15:40

近畿地方の花崗岩類、土壌、粘土の地域差
三辻利一（鹿児島国際大学）

研究発表 8 15:40-16:00

朝鮮系無文土器はどこで製作されたか—蛍光 X 線分析と偏光顕微鏡による既存データの再検討から—
平川ひろみ、中園 聡（鹿児島国際大学大学院）

特別講演 16:10-17:10

古人骨から南九州・南西諸島集団の成り立ちを探る
竹中正巳先生（鹿児島女子短期大学教授）

懇親会 18:00-

第 2 日 3 月 26 日（日）

一般講演（座長 川宿田好見）

研究発表 9 10:00-10:20

古墳時代の須恵器の産地推定法
三辻利一（鹿児島国際大学）

研究発表 10 10:20-10:40

埴輪の生産・供給問題の研究法
三辻利一（鹿児島国際大学）

研究発表 11 10:40-11:00

周辺地域におけるエスニック現象とその特性に関する検討—考古学的に観察できる現象とその解釈—
平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

考古学実験室機器見学 11:00-11:40

ポスターセッション解説※ 11:40-12:20

一般講演（座長 中園 聡）

研究発表 12 12:50-13:10

小豆島におけるパブリックアーケオロジの実践（2）—持続可能な博物館活動の構築に向けて—
川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）

研究発表 13 13:10-13:30

ごく一般的な遺物の三次元計測・記録とその意義
太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 14 13:30-13:50

中国東北地区における新石器時代土器の調査と SfM による記録（2）
楊 帆（鹿児島国際大学大学院）

閉会 14:00-

ポスターセッション※

研究発表 15

SfM による三次元記録の実践—中世瓦積み井戸での実践を主な例として—
太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 16

北タイの伝統的土器製作村における土器製作具の実態と所有意識
平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

研究発表 17

南九州における黒曜石とその産地—鹿児島県鹿児島郡三島村竹島の黒曜石—
宮田大之（(公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）

ハンズオン展示

北タイの伝統的土器作りと製作具

考古資料の三次元記録とレプリカ—鹿児島県三島村—

考古資料の三次元記録とレプリカ—香川県小豆島—

2017 年度日本情報考古学会総会報告

2017 年度総会（2017 年 10 月 29 日 於 明治大学）。
太郎良真妃会員を議長とし以下の審議・報告がなされた。

議題

1. 2016 年度会計報告について

適切に処理されていた旨の監査報告があり、承認。

2. 2017 年度予算案について

事務局より説明があり、承認。支出を抑える工夫を継続する旨、併せて報告された。

報告

1. 2016 年度活動報告

事務局より大会等の主な活動が報告された。

日本情報考古学会平成 28 年度決算報告書

収入		支出	
繰越金	770,709	情報考古学第 22 巻 1・2 号印刷費	88,776
会費	825,000	第 37 回大会講演論文集印刷費	37,300
大会参加費	119,000	第 38 回大会講演論文集印刷費	43,125
懇親会費	180,000	会報 No.38 印刷費	8,429
冊子売上	122,024	会報 No.39 印刷費	6,429
利息	2	パンフレット印刷費	0
		会員名簿印刷費	15,478
		学会賞トロフィー代	8,377
		会議費	15,000
		懇親会費	186,800
		講師謝金	60,000
		第 37 回大会開催費(入館料)	3,375
		第 38 回大会開催費(バス代等)	21,920
		事務局維持費 (含アルバイト代、消耗品費)	186,430
		振込等手数料	4,914
		送料	113,390
合計	2,016,735	合計	799,743
		次年度繰越金	1,216,992

日本情報考古学会平成 29 年度予算

収入		支出	
繰越金	1,216,992	情報考古学第 23 巻 1 号印刷費	100,000
会費	659,000	情報考古学第 23 巻 2 号印刷費	100,000
大会参加費	170,000	第 39 回大会講演論文集印刷費	77,000
懇親会費	260,000	第 40 回大会講演論文集印刷費	60,000
ブース展示 出展料	30,000	会報 No.40 印刷費	9,000
冊子売上	120,000	会報 No.41 印刷費	18,000
		会員名簿印刷費	16,000
		学会賞トロフィー代	11,500
		会議費	30,000
		懇親会費	260,000
		講師謝金	200,000
		大会会場費	70,000
		事務局維持費 (含アルバイト代、消耗品費)	230,000
		振込等手数料	30,000
		送料	150,000
合計	2,455,992	合計	1,361,500
		次年度繰越金	1,094,492

2016 年度第 2 回理事会議事録

日 時：2017 年 3 月 25 日（土）10:00 ～ 12:00

場 所：鹿児島国際大学

出席者：植木武（議長）、川宿田好見、中園聡、西村淳、
平川ひろみ、三辻利一

1. 報告

1. 2016 年度活動報告

事務局より主な活動として、次の報告があった。
会員情報の確認（4 月）。学会誌第 22 巻、会報
No.38、No.39、懸案であった会員名簿を発行した。
理事会を 2 回開催した。第 37 回大会（10 月 8・9
日 土浦市立博物館）、第 38 回大会（3 月 25・26
日 鹿児島国際大）を実施し、総会（10 月 9 日）
を開催するなどした。

2. 会員動向について

事務局より 2016 年度は退会者（長期滞納者を含
む）が 8 名、新規入会が 1 名であったことが報告
された。

3. 学会誌編集委員会報告

編集委員会より、『情報考古学』第 22 巻 1・2 合
併号を 2016 年 12 月 31 日に刊行したことが報告
された。外国語の原稿の場合、英語に統一するよ
う変更されており、すでに学会誌の執筆要項に記
載されていることも報告された。

2. 審議事項

1. 2017 年度の活動および予算方針について

事務局より 2016 年度の実績をもとに 2017 年度の
活動・仮予算案が提示され、承認された。

2. 学会誌のあり方について

編集委員長が交代することになり、新編集委員長
について審議された。また、学会誌の電子化に関
する具体的な方針等について検討した。

3. 学会の英語名称について

より適切な英語名称とするよう、変更の方法につ
いて議論がなされた。

4. 次回大会について

次回大会の会場の選定について話し合われた。早
期に会場の調整を行うこととし、その後の大会に
ついても開催地の検討がなされた。

2017 年度第 1 回理事会議事録

日 時：2017 年 10 月 28 日（土）10:00 ～ 11:20

場 所：明治大学

出席者：植木武（議長）、及川昭文、川宿田好見、菅頭
明日香、千葉史、中園聡、西村淳、野口淳、
平川ひろみ、廣田吉三郎、三瓶裕司

1. 報告

1. 会員動向について

事務局より新たな退会者が 4 名である一方、新規
入会者が 3 名いたこと、若手が増えていることが
報告された。

2. 学会誌編集委員会報告

『情報考古学』第 23 巻の編集状況が報告された。

2. 審議事項

1. 2016 年度会計報告（案）について

監査済みの会計報告案が提示され承認された。

2. 2017 年度予算（案）について

事務局より提案と説明があり承認された。

3. 学会賞の選考について

2017 年度の授賞対象が決定された。学会賞該
当なし、論文賞 2 件、堅田賞（優秀賞）該当なし。

4. 日本情報考古学会 2017 年度総会について

総会の議題・報告の内容が確認された。

5. 学会誌編集委員長の交代及び同委員会について

西村淳編集委員会委員が新委員長として選任され
た。編集委員会のメンバーについて再確認された。

6. 学会の英語名称について

審議方法について確認が行われ、今後も検討を進
めることになった。

7. 学会誌のあり方について

学会誌の電子化に関して、今後さらに投稿規定・
査読規定等の見直しを進めることが確認された。

2017 年度日本情報考古学会賞

2017 年度日本情報考古学会賞が決定しました。第
39 回大会において、2017 年 10 月 29 日、総会に引き
続いて学会賞授与式が開かれ、植木会長より表彰状と
記念の盾が贈られました。

受賞は次のとおりです。今後のますますのご発展を



論文賞。左は泉氏。右は植木会長



論文賞。左は平川氏

祈念いたします。

論文賞 泉 吉紀・酒井英男「壁面からの地中レーダ探査による遺構内部構造の研究」(『情報考古学』Vol.20 No.1・2, 2014)、密接に関連する論文として、泉吉紀・酒井英男・鈴木碧・渡邊樹「東之宮古墳における地中レーダ探査」『日本情報考古学会講演論文集』Vol.17(通巻37号)も一緒に受賞。

論文賞 平川ひろみ「土器製作者と製作具—北タイ伝統的土器製作村の民族考古学的検討から—」(『情報考古学』Vol.22 No.1・2, 2016)、密接に関連する論文として、同「北タイの伝統的土器製作村における土器製作具の実態と所有意識」『日本情報考古学会講演論文集』Vol.18(通巻38号)も一緒に受賞。

なお、学会賞と堅田賞(優秀賞)は、今年度は該当なしでした。

第40回大会 in 小豆島の開催について

日本情報考古学会第40回大会を下記のとおり開催いたします。多くの方のご参加をお待ちしております。また、周知にご協力ください。

開催日 3月24日(土)・25日(日)の2日間
場 所 小豆島ふるさと村 セミナーハウス
(香川県小豆郡小豆島町室生)

後 援 小豆島町役場

テーマ 「デジタル技術と地域貢献」

一般講演・ポスターセッション

エクスカージョン 国指定史跡 大坂城石垣石切丁場跡
(天狗岩丁場、八人石丁場)、重要有形民俗文化財 池田の棧敷などを予定

◎学会ホームページに新しい情報を逐次お知らせします。

開催地は「日本の地中海」と呼ばれる穏やかな瀬戸内海に浮かぶ小豆島。淡路島に次いで瀬戸内で2番目に大きな島で、温暖な気候に恵まれています。オリーブ、醤油、佃煮、素麺などの特産品、山海の珍味が味わえます。映画『二十四の瞳』の舞台としても知られ、日本三大渓谷美の一つで国の名勝の「寒霞溪」、国指定史跡 大坂城石切丁場跡など歴史と自然が融合する荘厳な景観のほか、中山千枚田(棚田)の伝統的田園風景……。考古学において興味深いフィールドであり、デジタル考古学を駆使した記録やパブリック考古学の取り組みもあります。どうぞ、小豆島へお越しください。お待ちしております。

日本情報考古学会第40回大会実行委員会

【交 通】

◆高松・岡山・姫路・神戸・日生などからフェリー・高速艇等でアクセス。

◆池田港が最寄りの港です。池田港—会場の間はマイクロバス等での送迎を予定しています(5分)。

◆参加者の利便性を考慮し、不安なくご参加いただけるよう、大会実行委員会が各港から／各港へマイクロバス等での送迎を手配し、ご案内する予定です。

そのため事前申し込みをおすすめします。ご宿泊の予約、各地からのアクセス等のお問い合わせは大会実行委員会(下記)で承ります。アクセス・宿泊・島内の移動等の詳細は学会HP、2nd circular等でお知らせします。

【ご予約・お問合せ】

大会実行委員長 川宿田好見 jsai40th@gmail.com

※会場へのアクセスや送迎等の便宜のため大会実行委員長を通じてのご予約をおすすめします。

オリーブ

歴史を奏でる、海

重岩

寒霞溪

地域に根付いた
石の文化

荘厳な自然

期間中にエクスカーションを予定しています。

大坂城石垣石切丁場跡
天狗岩丁場、八人石丁場
池田の棧敷など

大天狗岩

島の風景

ギリシャ風車

二十四の瞳映画村

中山千枚田

大坂城残石記念公園

池田の棧敷

写真提供 小豆島町役場

醬の郷

産業と景観

天然醸造木桶蔵

伝統と技

日本情報考古学会第40回大会

小豆島

デジタル技術と地域貢献

資料の3D記録など、考古学を取り巻くデジタル技術は、研究資源であると同時に地域の活性化や教育などに広く貢献できると見込まれる——これからの展開・普及を考えます。

『3D 技術と考古学 基調講演資料』の頒布

第 39 回大会当日発行の『日本情報考古学会講演論文集』Vol.19 (通巻 39 号) と、当日配布の『3D 技術と考古学 基調講演資料』の残部を合わせて頒布しています。

【内容】

- ◆『日本情報考古学会講演論文集』Vol.19 (通巻 39 号): シンポジウムの基調講演全件 (10 件) の要旨 (文字のみ。各 350 字～1500 字程度)、および大会の一般講演 (研究発表) の全件について、密接に関連する論文 (14 件) を収録。シンポジウム以外にも 3D 関連やその他の論文も掲載されています。A4 判 82 頁、無線綴じ
- ◆当日配布の資料『3D 技術と考古学 基調講演資料』: 要旨と基調講演のカラーの図・表・写真を収録 (基本的にスライドの図等を選択したもの)。A4 判 25 頁、中綴じ (簡易印刷・手製本のため多少の不鮮明・不揃いなどがあります。あらかじめご了承ください。)

※『基調講演資料』のみの頒布はいたしかねます。

【頒価】 (今回は送料無料)

『日本情報考古学会講演論文集』Vol.19 (通巻 39 号)
2000 円 / 1 冊

『日本情報考古学会講演論文集』Vol.19 (通巻 39 号)
+ 『基調講演資料』2400 円 / 1 セット

【申込方法】

以下の 5 つの項目を明記のうえ、本学会事務局までメールでお申し込みください。

①氏名、②電話番号、③「講演論文集 Vol.19 のみ」
／「基調講演資料とセット」のいずれか、④冊数／セッ



講演論文集 Vol.19 (通巻 39 号)



基調講演資料

ト数、⑤送付先。

支払方法等を返信のうえ、速やかに発送いたします (後払い)。

なお、そのほか『日本情報考古学会講演論文集』、学会誌『情報考古学』のバックナンバーなども扱っています。入手ご希望の方は、在庫・頒価などをお知らせいたしますので、学会事務局までメールでお問い合わせください。『日本情報考古学会講演論文集』のバックナンバーは、送料 (通常は DM 便で 82 円) が別途かかります。速達や多数の場合はお問い合わせください。

学会誌『情報考古学』の投稿先・編集局の変更

学会誌『情報考古学』の投稿原稿送付先が変更になりました。これまで京都工芸繊維大学の宝珍輝尚研究室に学会誌の編集局を置き、学会誌の編集等を行ってききましたが、今年度、函館大学の西村淳研究室に移転しました。

また、投稿原稿はこれまで編集局に直接送付していただくことになっていましたが、投稿先は、学会事務局 (鹿児島国際大学) を窓口とすることに変更となりました。今後は、学会事務局宛てにご送付ください。あわせて、学会誌の投稿に関するお問い合わせなども事務局で承ります。送付先・連絡先は、本会報の奥付と同じです。お間違いのないよう、よろしくお願いいたします。

本学会では、学会誌『情報考古学』の充実を図っています。会員の皆様におかれましては、研究成果を積極的にご投稿くださいますよう、お待ちしております。

本学会は下記の賛助会員よりご支援いただいています。

株式会社 四門 株式会社 CUBIC
国際文化財株式会社 ほか

日本情報考古学会会報 No.40

2018 年 2 月 19 日

発行 日本情報考古学会事務局

〒891-0197 鹿児島市坂之上 8 丁目 34-1
鹿児島国際大学中園聡研究室内

E-mail: archaeoinfoiuk@gmail.com

<http://www.archaeo-info.org/>